

28堀小〔算数少人数〕専科経営プラン

◆専科目標

「わかる楽しさ、できる喜びを味わい、さらに学習を進めたくなるようにする。」

- 算数の基礎基本を着実に身につけることができるようとする。
- 新しい問題を、既習事項を使って自力解決できるようとする。
- 友達の考えを聞いて、その良さを認め、自分の考えに生かせるようとする。
- 次の課題を見つけ、取り組もうとする意欲をもたせる。

◆ 専科経営（学校経営計画を受けて専科として重点にしていくこと）

【方針】

- ・担任と連携を図り、学期や単元を通した指導計画を立て、教材研究をし、指導の工夫をする。
- ・少人数指導の良さを活かし、学年の実態に合わせて効果的な習熟度別指導や個別指導を行い、一人一人の児童の学力向上を目指す。

【重点的な取組】

- ・算数の基礎基本の着実な定着を図る。
- ・問題解決型の授業展開を心がけ、見通しを持って問題を解決する活動を繰り返し行うことを通して、自力解決する力を養い、自力解決や友達と学び合うことの楽しさを味わわせる。
- ・ノート指導を重点的に行い、児童の学びの様子を把握し、指導助言を行い、次時の活動につなげていく。

◆ 専科経営（特に大事にすること、配慮すること）

- ・「分からぬことも毎日少しずつ学習していくば分かるようになる」という経験を、一人でも多くの児童に、数多く積ませることができるように、朝や休み時間、放課後の時間を使って、児童の学ぶ意欲に応じた指導ができるようとする。
- ・前時に学んだことを次時につなげ、点の指導が線となっていくような授業を積み重ねる。
- ・学校全体で算数ノートの使い方を共通理解し、ノート指導を徹底して行う。
- ・ノートの書き方を工夫し、式と図と言葉を使って、自分の考えを分かりやすく書けるようになしたり、友達の考えを記録したり、学習の様子が分かるノートが書けるようにする。
- ・担任との連携を大事にし、単元ごとはもちろんのこと、適宜打ち合わせを行い、より良く一貫した指導が行えるようにする。若手教員には毎日の授業の振り返りを通して、指導の充実を図り、児童の考え方の理解のしかたなどについて指導を行う。
- ・学年の実態に応じたグループ編制を行い、より効果的な指導が行えるようとする。
- ・専科の先生方との連携を通して多くの情報を得ることで、児童一人一人の良いところを認め、伸ばしていくことができるようとする。専科の先生方の思いや考えを担任に伝えていく。
- ・授業に活用できるような、児童が自ら振り返ることができる各学年の掲示物を作成するなど、教室環境整備をする。